

テーマ: 自然と音のハーモニー 1回目2025年6月～8月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通して、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【いろいろな音に出会おう！】

活動のねらい

楽器玩具遊びを通して色々な音を聞いたり、鳴らして遊ぶことを楽しみ、音に親しむ。



【環境をデザインする】

・準備したもの: 電子ピアノ・玩具(どうぶつピアノ・トイローヤルまわしてくるくるサウンド・トイローヤル光とボイス・たたいてペビードラム・ロールアップピアノ)



【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

6月園長先生によるリトミックがありました。きれいな音色の曲をじっくりと聞いたり、曲に合わせて保育者と一緒に体を動かしたりすることで、音を聞くことに興味をもつ姿が見られました。日頃から歌や、ピアノの曲を聞くと手拍子をとったり、身体を揺らしながらマラカス等音の鳴る玩具を振ってリズムをとったりと音楽に親しむ姿見られてきました。7月には低月齢児が入園し、クラスの人数も増え、音を身近に感じてもらえるように月齢や発達段階に合わせた音の鳴る様々な種類の玩具を用意しました。保育者や他のこどもたちが遊んでいる姿を見て興味をもつ子どもたち。玩具に触れ、自分で鳴らし楽しむ音に出会う姿が見られました。驚きや発見があり、好きな音を見つけ喜び「あ！」と声を出して夢中になって遊んでいました。

【気づきや振り返り】

音のなる玩具や楽器遊びを通して、五感に刺激を受けながら手指先の力を使い集中力やリズム感を乳児のころから身に付けていくことで、子ども達の成長に繋がっていくと思いました。

テーマ: 自然と音のハーモニー 2回目 2025年12月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 自然の音に親しもう！ 】
活動のねらい
自然の中で五感を使い、音を感じる。

【環境をデザインする】

・木の実や落ち葉等自然物・ミニペットボトル・カ
プセルトイ・透明カップ



【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

散歩に出かけると、鳥の鳴き声や風やヘリコプター等の音が聞こえると周りを見渡し指差したり喃語を発して知らせたりと普段から身の回りの色々な音に出会い、指さしや声を出して喜ぶ姿が見られている子どもたち。

公園にでかけると、たくさんの落ち葉やどんぐりが落ちており、高月齢児が拾い始めたので、透明カップに入れて集めたり、落ち葉の絨毯を踏んでミシミシカサカサと鳴る音に耳を済ませたり感触を楽しんでいました。保育者が歌う『おもちゃのチャチャ』の歌に合わせて低月齢児もどんぐりを入れたボトルをもって振って音遊びをし興味をもつ姿が見られました。たくさんの発見に驚きを出して知らせたり友だち同士真似し合ったり一緒に楽しんだり夢中になって遊んでいました。

【気づきや振り返り】

指さしや喃語が見られる中で、五感を刺激していく中で、言葉の獲得や感性の発達を促していきたいと思います。



テーマ: 自然と音のハーモニー 3回目 2026年2月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 どんな音が出るのかな？ 】

活動のねらい
色々な楽器に触れ、重たさや感触、音の違いを感じながら五感を育む。

【環境をデザインする】なかよしリズムスタンド(楽器含め)

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

日々の中で、玩具の楽器などを好んで遊ぶ子どもが多かったため、その中で様々な楽器に触れる機会を設けた。保育者が部屋に運んでくると見たことのないものへ興味津々であった。楽器に触れられると興味のあるものをいくつも手にとって他物を取っていた。また楽器を手にとると、保育者やお友だちの真似をして振ってどんな音が出るのか確かめる子どもも多かった。

【気づきや振り返り】

子どもたちの様子をよく見ていると、大半の子は音を確認するときには振る行動が先に出るのだと知ることができた。また、振り方がわからない子も、真似をして振り方を知るという体験によって探究心が広がるように感じた。



テーマ: 自然と音のハーモニー 1回目 2025年6月～7月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【自然の音を見つけよう】

活動のねらい

戸外遊びの中で、自然の中の音や子ども自身が見つけた音を楽しむ



【環境をデザインする】

・準備したもの: 落ちている枝、砂場道具、楽器

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

戸外遊びの中で、様々な音がある事に気が付き自分たちで音を探す遊びをまずは楽しんだ。

→木を枝で叩いてみたり、アスファルトを枝で叩いてみたり、排水口の蓋や砂場道具のバケツを叩く等、子ども達の発見を大切にして共有しながら遊びの中で音を探した。

園にある楽器を出して、自由に音を出す事を楽しんだ。

→楽器に触れるのが初めてだった子どももいたので、使い方を紹介しながら自由に遊んだ。特に太鼓はバチを使って大きな音や小さな音が出る事を「大きな太鼓、小さな太鼓」の歌に合わせながら叩くのを楽しめていた。

踏むと音が鳴る玩具を使って音階を少しずつ理解出来る様にした。

→保育者が音階の順番に並べて道を作ったが、自分たちで並び順を変えるなど音階の理解はまだ難しい様子だった。

【気づきや振り返り】

音を見つける事を遊びの中で楽しみながら行うことが出来たので、今後は自分たちで音を作り出す事を楽しめる様に促していく。

テーマ: 自然と音のハーモニー 2回目 2025年8月～9月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 いろいろな音を知る 】

活動のねらい
楽器の使い方を知り、音を奏でる楽しさを知る。
生活の中で、様々な音がある事に気が付き言葉で表現する事を楽しむ。

【環境をデザインする】

・準備したもの: 楽器



【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

前は自然の音を発見して遊ぶことを楽しんだので、秋は実際の楽器を遊びに取り入れて楽しんだ。楽器の使い方を年上の友だちと一緒に学び、知る事で音への関心も高まっている様子だった。楽器を初めて見る子どももいたので、保育者が見本で使い方を見せると興味を持って「やる！」と遊ぶ事が出来ていた。

【気づきや振り返り】

楽器の名前も自分たちから聞いてくるなど知識を増やしている様子だった。次は実際に自分たちで簡単な楽器を作って遊べるようにしていく。

テーマ: 自然と音のハーモニー 3回目 2025年12月～2026年1月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 楽器を作る楽しさを知る 】

活動のねらい

自然の物を使って楽器を作り、遊びに取り入れる。
どんぐりを入れる量を調節して音の変化を楽しむ。

【環境をデザインする】

・準備したもの: ペットボトル、どんぐり



【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

戸外遊びの中でどんぐりを拾う事を楽しんでいたが、小さいサイズのどんぐりは誤飲の可能性があるので、子どもたちに持ち帰る事を禁止していた。担任が一つの袋に入れて持ち帰り、ペットボトルに入れて見ると音が鳴る事に子どもたちが気が付き楽器作りが始まった。どんぐりの量を調節してみたり、ペットボトルの大きさを変えてみたりと様々な種類の楽器を作ることが出来た。「見て！」と声を出して遊びの中で音を鳴らしてみたり、音楽に合わせて鳴らしてみたりと楽しむ様子が見られた。

【気づきや振り返り】

音に関心を持ち、生活の中で様々な音に気が付いて友だちや保育者と共有する楽しさを知ることが出来た1年になった。

テーマ: 自然と音のハーモニー 1回目 2025年8月～2025年9月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【いろいろな音を発見しよう！】

活動のねらい

夏ならではの水遊びを通じてどんな音があるのかを知り、音の楽しさに気がつく。



【環境をデザインする】

・準備したもの: レジャーシート・タライ・氷・水遊び用玩具

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

夏の間行う水遊びから生まれる音に注目して活動を行った。できるだけいつも使っている身近なものを利用した。

・氷の音

氷を容器から出す際に水をかけると微かに音がするので、それに注目した。「静かに聞いてごらん。」などと声かけをするとしっかり耳を澄ませて聞いていた。「わあ～」と音がしたことがわかった様子だった。「どんな音がするかな？」と問いかけたが、ピンと来ていなかったようなので、「ピキピキ音がしたね。」などと声をかけると、真似して言う姿があった。

・タライにあたる水の音

絵本「こぐまちゃんのみずあそび」でこのような場面があったので、子どもたちも真似して行ってみた。絵本で見ていて親しみがあったり、「やってみたい」という子どもたちの気持ちが強かったりしたことで、楽しく音を感じることができた。「ザーザーって言っているね。」「雨みたい。」と雨の日と重ね合わせ楽しみながら行うことが出来ているのが印象的だった。

【気づきや振り返り】

身の回りに様々な音が存在していることが分かった。子ども達も最初はピンと来ていない様子もあったが、保育者の声掛けや働きかけそれによって気が付くことができていたので、今後もそのような声掛けや働きかけを行っていきたい。日常に潜む音に気が付くと同時に楽器などを使い、近い音を探すことなどもしていきたいと思う。今期は夏ならではの音を発見できて良かったと感じた。

テーマ: 自然と音のハーモニー 2回目 2025年10月～2026年11月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【いろいろな音を発見しよう！】

活動のねらい

秋の自然に触れながら音を楽しむ。



【環境をデザインする】

・準備したもの: 楽器・空き容器・どんぐり

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

① 同じ音を探そう

公園に行くと、落ち葉がたくさん落ちており、行くとたびにそれを踏んだり、ふわりと宙に舞うように投げたりした子どもたち。「ザクザク」「シャカシャカ」などの擬音語を使いながら歩いていました。そこで、それを子どもたちが普段好きで行っている楽器あそびと結びつけてみることにしました。まずはいつものように好きな楽器を手に取り触れる所からはじめ、「葉っぱの音はどんな音だったかな？」などと問いかけながら行いました。すると、葉っぱの音よりも先に「これ鳥さんみたい！」と『バードコール』と言う楽器を手にする姿もありました。思わぬ発見もありながら、皆で葉っぱの音を探しました。普段の生活の中での音も楽器で表現出来るものを探し想像力を広げていけたらと思います。

② 木の実(どんぐり)を使って音を鳴らそう

どんぐり拾いが好きで、落ちているのを目にするとすぐに手に取っていたのですが、それを何かに生かせないかと考えた。拾うだけではなく、楽器にしてみる事にしました。小さいペットボトルを用意し、そこに拾ったどんぐりを入れフタをしてマラカスにしました。拾うのが楽しくて目一杯入れてしまいあまり音が鳴らない子どもも多かったのですが、それと比較するようにどんぐりが少ないものも用意し、比較できるようにしました。好きな木の実拾いと好きな楽器を掛け合わせただけで、鳴らしながら歌を歌う姿を見ることが出来ました。どんぐりの量を調節したら音が鳴るのか、音が違うのかなどを知ることが出来たと思います。

【気づきや振り返り】

葉やどんぐりで鳴らした音の経験より、普段の生活の中での音も楽器で表現出来るものを探し想像力を広げていけたらと思います。

テーマ: 自然と音のハーモニー 3回目 2026年1月～2026年2月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 いろいろな音を発見しよう！ 】

活動のねらい

風の音から様々な表現方法を発見する

【環境をデザインする】

・準備したもの: 楽器・画用紙

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

3回目のテーマは「風」にして行いました。まずは「風ってどん

な音がするかな？」と問いかけてみると、「ビュンビュン」「ビュー」などの擬音が出てきたほか、「フー」と口で風を吹いて表現する子どももいました。

さらに表現の幅を広げるため、以下の3つの方法を用意し問いかねながら行いました。

①音で表現

楽器を用意し風の音を表現したのですが、単純に楽器を楽しむ姿がありながらも、それぞれが思う風の音を鳴らしていました。棒を使い音を鳴らす楽器や連続して鳴る音の楽器が多かった印象です。

②からだ(動き)で表現

腕やからだを大きく使い、横に動かす動きが多く感じました。回転したり勢いをつけたりしていましたが、悩んでいる子どももいました。

③色で表現

予想通り水色、青、白などの寒色系を選ぶ子どもが多かったのですが、予想していなかった赤を選ぶ子どももいました。

【気づき・振り返り】

どの表現方法も自由でさまざまありました。想像していなかった表現もあり、新しい発見もできて面白かったです。しかし、さまざまあった中でも似通った表現もいくつかありました。日々の生活や遊びの中で自然とそういった感性が身についているのではないかとも思いました。その子どもそれぞれの感性を大切に、のびのびと育てていきたいと思いました。



テーマ: 自然と音のハーモニー 1回目 2025年8月～2025年9月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通し、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【水の音・音の大きさと小ささ・振動について学ぼう】

活動のねらい

水の音を体感しながら聞いてみる。

ハンドベルを使用して音の高い、低い、大きい、小さいの違いを知る。

糸電話を使って振動について学ぶ。



【環境をデザインする】

・準備したもの: レジャーシート・コップ・糸・段ボール・ハンドベル

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

【水の音】

普段遊んでいる水遊びでは気付かなかった水がはじく音に対して「バラバラなおとがみずのりょうがすくないとき、おおいときはドドっておとがするよ」などと水量の違いが音の変化も生むことに気づいた様子であった。

【ハンドベル】

まずはハンドベルを用意して高い音、低い音の違いを体感し、広い部屋の空間で聞いた音、狭い空間で聞いた音の違いを体感した。「どんな音に聞こえる？」と聞くと「ひろいところだとながくきこえる！」と、響きの違いや反響の時間差に気付いたり、「せまいダンボールのへやだとおとがおおきい！」と音の大きさに気付いたり、「せまいとちょっとこわいおとにきこえる」と、不快な音に感じた子どもの姿も見られた。

【糸電話】

糸電話を使用して、声が空気を振動させ、その振動がコップの中から糸を伝って相手のコップに伝わる仕組みを体感し「こんなほそいいとにしんどうってつたわるの？」と、振動について興味関心が深まった様子であった。

【気付き・振り返り】

次回は振動の振れ幅の小ささ、大きさの違いを目で見て体感するような体験を実施し、子どもたちの探究心を更に深めていきたい。



テーマ: 自然と音のハーモニー 2回目 2025年10月～2025年11月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通して、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【 振動について学ぼう・木の音、枯葉の音を聞いてみよう 】

活動のねらい

太鼓の膜とボールを通して振動の大きい小さいを学ぶ。

枯葉を踏みしめる音を聞いてどんな音が聞こえるか、どんな楽器の音に聞こえるか想像する。

木の音・鼓動を聞いてみる。

1



【環境をデザインする】

・準備したもの: 太鼓・カラーボール・聴診器

【活動内容、子どもの姿、保育者との関わり】

【太鼓】大きく叩くとボールが大きく跳ねる、小さく叩くと小さく跳ねる現象を通して太鼓の膜の“ふるえ”の大小の違いで起こるボールの動きの違いを目で見て体感することができた。子ども達は以前行った糸電話での振動の体験を覚えており、「いとはふるえているのがみえなかったけど、たいこだとふるえているのがみえておもしろかった」と、二通りの体験を比べる姿が見られた。以前行った糸電話の体験から少し日にちが経ってしまったので体験する日にちが近かった方が良かったと感じた。

【落ち葉】落ち葉を踏みしめて歩く際に「どんな音が聞こえるかな?」「どんな楽器の音に似てるかな?」などと問いかけた事で「このおおきいはっぱのおとはなにかな?」「こっちはシャカシャカきこえる!」などとただ歩くだけでは得られない、子どもたちの探究心が深く感じられた時間を過ごせた。「スズのおとにきこえた」「マラカスのおとにきこえた」などと様々な声が聞かれた。

【木の音】聴診器を使用して木の鼓動を聞いてみた。薄い樹皮を探して実施したが子どもによって聞こえる子と聞こえない子の差があった。しかし聞こえなくても「このきならきこえるかもしれない!」と、様々な木に聴診器を当てて探究活動を楽しむ姿が見られた。「ガサガサきこえる!」「ゴボゴボきこえる!」などと様々な声が聞かれた。聞こえなかった子ども達にはネットで検索した録音で聞かせており「おしゃべりしてるのかもかもしれない」と、つぶやく子どもの姿もあった。

【気付き・振り返り】

落ち葉の踏みしめる体験を通して、次回は自然物を使用した楽器作り、振動を取り入れた楽器作りを行い、音を出すための動作と音を出す物の質の違いによって様々な音を生み出してみたい。

木の鼓動の正体は明確には判明していないとの事なので、子どもたちの発した色々な声から、次回は子どもたちと一緒に木の鼓動の正体を想像してもらい、絵で表現してみたいと思う。

2



3



テーマ: 自然と音のハーモニー 3回目 2025年12月～2026年1月

園周辺の自然豊かな環境を活かし、季節の移り変わりを音を通して、子どもたちの自然への興味関心を更に伸ばしていくためテーマを設定。

【木の音を聞いてみよう・手作りおもちゃで振動を体感してみよう】
活動のねらい

聴診器を使い木の音を聞いてみる。
ギター作りを通して振動を体感する。

聞こえた木の音の正体を想像し、絵でデザイン・表現する

【環境をデザインする】

・準備したもの(聴診器・画用紙・絵具・クレヨン)

【活動内容、子どもの姿、保育者の関わり】

①《聴診器》聴診器で木の音を聞いてもらい、どんな音が聞こえるか問いかけると「ドンドン」「ゴゴゴ」「ザワザワ」などと様々な声が聞かれた。子ども達は一体どんな音が聞えるのかワクワクした様子で楽しんでた。また、大人が聞える音と子どもが聞える音とでは低い・高いなどの差があり非常に面白い体験ができた。

②《ギター作り》様々な輪ゴムの幅をティッシュ箱につけ、音の違いを体感してもらった。細い輪ゴムは高い音、太い輪ゴムは低い音、などと音の違いを感じたり振動の様子をじっくり観察することが出来た。振動して音が聞える仕組みを分かりやすく体感することが出来た。

②《デザイン・表現する》

木の音の正体は明確な正解がないということなので、前回行った活動で出た子どもたちに思い出してもらうように問いかけ、子ども達に想像してもらい、想像した音の正体を絵で表現してもらった。「にんげんがすんでいるおと」「きがおみずをのんでいるおと」「きっとむしがなかにすんでいるんだよ!」

「きがダンスをおどっているとおもう」「うみのおとがしたからうみがひろとつながっているんだよ」などと様々な声が聞かれ、子ども達はおもいきり絵で表現していた。

【気付き、振り返り】

こちらの問いかけに、想像力豊かに考え、普段発言しない子も発言する良いきっかけにもなった。明確な正解がないからこそ、子ども達にたくさん想像してもらうことが出来た。「こんどはつちのなかのおとをききたい!」と、更なる探求心が広がっていた。

